

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 志井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

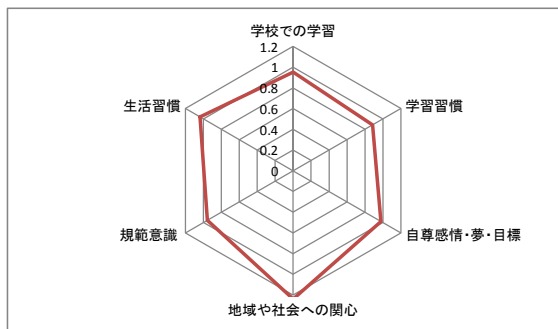
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。特に「書くこと」の領域の正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題	
	努力が必要な問題	相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域の正答率がやや高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題	
算数A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率をやや下回っていた。特に「数量関係」の領域の問題が正答率を下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	円周率の意味について理解しているか問う問題	
	努力が必要な問題	直径の長さと同周の長さの関係について理解しているか問う問題	
算数B	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率と同程度であった。折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を示された数量を関連付け根拠を明確にして記述する問題の無回答率が低かった。	全国平均正答率との比較 同程度
	よってきた問題	示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現する問題	
	努力が必要な問題	示された考えを解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率をやや下回っていた。特に「エネルギー」の区分の問題が正答率を下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想する問題	
	努力が必要な問題	太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や社会への関心が高く、地域行事に参加する児童が多い。 ・ 学校で課題をもち、自分で考えて勉強している児童の割合が少ない。「めあて」「まとめ」「振り返り」のより確実な実施を行い、見直しをもって学習に取り組ませる必要がある。 ・ 学校の授業以外の勉強時間、家で自分で計画を立てて勉強している割合が少ない。家庭とも連携し、家庭学習の工夫・改善を行う必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

授業において、「めあて」「まとめ」を書くことを確実にし、自分の考えを表現する「振り返り」の時間を設定する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習チャレンジハンドブックの活用等を行い、生活習慣や学習習慣の見直しを図るように家庭と連携する。